

千葉県立図書館基本構想における「これからの千葉県立図書館」

基本理念

- 知識基盤社会における、光り輝く千葉県を目指す**知の拠点**として、中核的公立図書館の重要な役割を担う。
- 知識や情報の収集・発信の拠点**として、すべての県民が、生涯にわたり豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できるようにする。
- 自ら考え判断するための知識や情報を利用できるよう、人づくりや知の基盤づくりに貢献し、本県の経済・産業・文化・教育などの発展に寄与する。

役割と機能

1 県内図書館の中核としての役割

- (1) 市町村の読書環境の充実のための支援
- (2) 図書館職員の研修センター
- (3) 県内図書館ネットワークの拠点

2 子どもの読書活動の推進

- (1) 子どもの読書活動の推進拠点
- (2) 学校図書館の支援

3 課題解決支援図書館

- (1) 調査研究や政策形成の支援
- (2) 調査研究に役立つ資料の収集と情報の提供

4 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

- (1) 千葉県関係資料の計画的な収集の整備と情報発信
- (2) 貴重資料の保存

「知の拠点」

5 知の創造と循環を生み出す公共の場

- (1) 博物館など関係機関との連携
- (2) すべての県民が利用しやすく快適な社会教育施設

千葉県立図書館基本構想における「これからの千葉県立図書館」

5 知の創造と循環を生み出す公共の場

(1) 博物館など関係機関との連携

- M L A 連携や大学図書館などとの連携により、文化的情報資源（知識、資料など）を収集、蓄積、提供し活用していくため、更なる図書館職員の専門知識の向上や、関係機関相互の協力を図る。
- 博物館や文書館などとの協同事業や連携体制を充実させ、各々の施設の独自性や特徴を尊重しつつ、利用者サービスの向上の観点から、施設の複合化の可能性を検討する。
- 大学図書館や研究機関などとの連携強化を図り、県民が利用できる文化的情報資源を拡充し、多様な学習ニーズに対応する。

(2) すべての県民が利用しやすく快適な社会教育施設

- 高齢者や視覚障害者などの読書活動・生涯学習活動の支援を推進するため、文字の大きな活字本や拡大読書器の設置、音声録音図書や活字デジタル図書の整備などの読書環境の充実を図る。
- 県民の学習意欲の向上や課題解決のための調査など、静謐な環境を要する個人学習や、ワークショップやグループ学習など、様々な学習形態に対応できるように施設内の空間構成に配慮し、これらに資する情報機器の整備を図る。
- 人と人との出会いや、新たな創造や思考が触発され、知的交流が自然に図られ、障害のある人もない人も多くの人が集う本県のランドマークになるような図書館を目指す。